

# P12 天然酵母飲料コーボンマーベル によりQOLが改善したクローン 病の1例

○大西秀典<sup>1</sup>、多田龍生<sup>2</sup>

- 1) ストレスクリニック・おおにし内科
- 2) 第一酵母株式会社

## 〔目的〕

天然酵母発酵飲料コーボンマーベルの飲用により著名なQOLの改善を認めたとのクローン病患者から感謝の手紙があり、上記飲料のクローン病に対する食効を検証するために飲用臨床治験を行った。

## 〔方法〕

現在医療機関に受診しているクローン病患者を対象として、患者の会及びインターネットホームページで治験応募者を募った。7名の応募があり、今回は主治医の承認と協力が得られた1名につき治験を行った。コーボンマーベルを1日10mlから始め、13日目に60mlになるように漸増し、以後1日60mlを6週間に渡って飲用させた。主治医に厚生省特定疾患個人調査票を記入してもらい、治験前後のIOIBDスコアと血液検査を比較した。患者には日々の臨床症状を記録してもらい、それを解析した。

## 〔結果〕

患者は昭和62年3月に発病し、最重症時にはIOIBDスコア8点。最近3年間は安定した病状で、治験前の同スコアは3点。終了後の同スコアは3点で変化はなかった。血液検査では総蛋白と総コレステロールの改善を認めた。臨床症状では治験期間中、食品の種類と量が増えたにもかかわらず、腹痛、発熱、粘血便は認めず、全期間中の下痢は計6日間であった。また全般健康度の改善を認めた。

## 〔考察及び結論〕

クローン病は原因不明で緩解と再燃を繰り返す難治性、炎症性腸疾患である。患者は食生活の制限を始め、学校生活、仕事、旅行、性生活などに様々な制約がある。今回の治験症例では食生活が豊かになり、全般健康度が改善し、社会活動も活発となりQOLの改善を認めた。クローン病の病態は炎症性サイトカインネットワークの異常が持続することにあると考えられている。コーボンマーベルの免疫異常患者に対する先の臨床治験より、サプレッサーT細胞の活性化作用が推測され、クローン病においてもコーボンマーベルの飲用により、サプレッサーT細胞の賦活を介して炎症性サイトカインネットワークの抑制が起こると推測される。さらに臨床治験を進めたい。